

群 教 セ	G02 - 03
	平27.257集
	社会 - 中

複数の資料を比較・関連付けて、より 広い視野から考察し表現する力の育成

—資料の読み取りを支援し、

思考の広がりをもつワークシートの工夫—

特別研修員 吉田 智行

I 研究テーマ設定の理由

はばたく群馬の指導プランには、群馬県の中学校社会科（地理的分野）の課題として、「自然的及び社会的条件を事象と関連付けて考え、地域的特色を理解する」とある。その中で、地理的資料を読み取ったことを根拠に伝え合い、互いの意見を聞き合うことで、より広い視野から考察・判断し、自然のおよび社会的条件を事象と関連付けて考え、地域的特色を理解する資質能力が高まることを重視している。

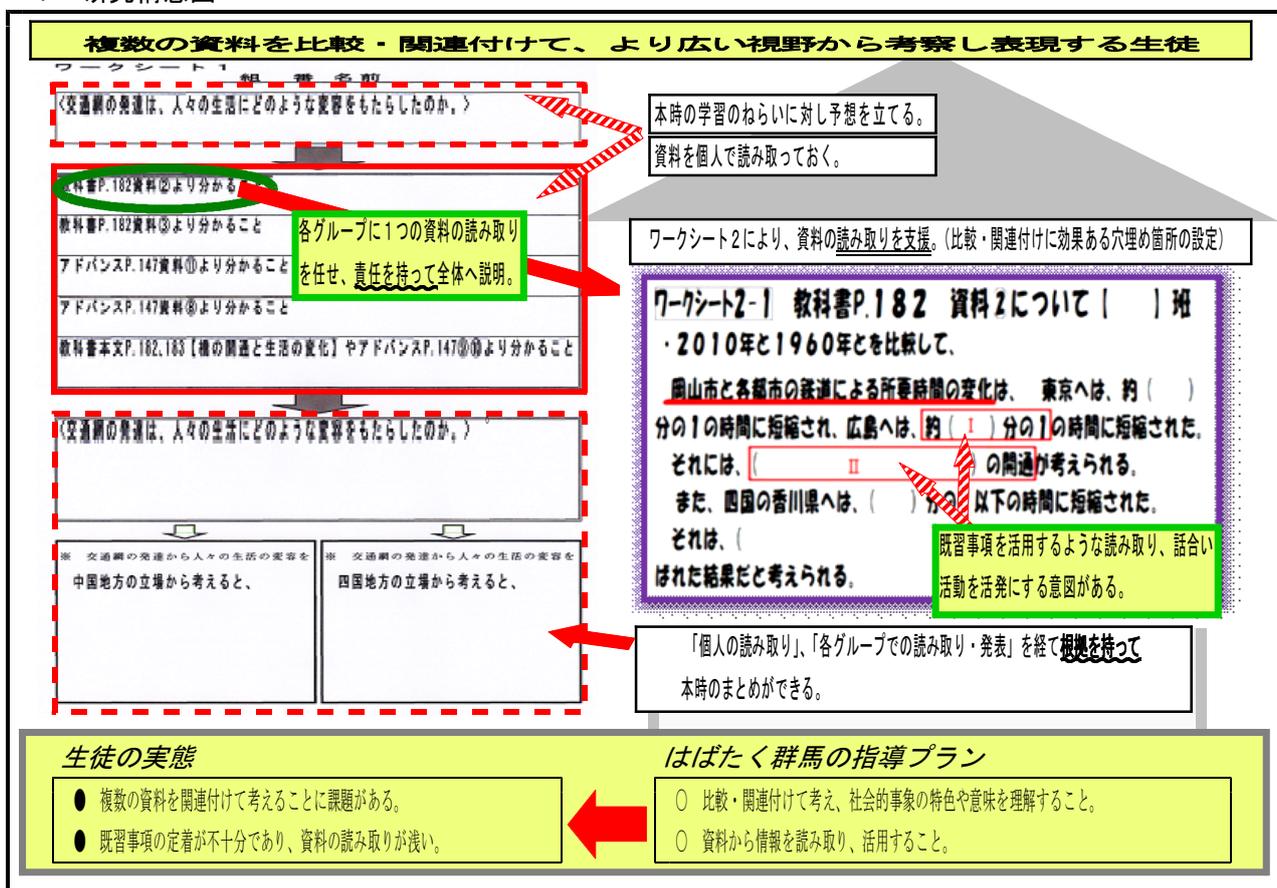
本校の生徒は資料の単純な数値の大小や変化、写真資料からの気づきを答えることはできるが、学習規律が不十分であり、複数の資料を比較・関連付けて考えることや表現することを苦手としている。

そこで、まず個人で資料に目を通し、各々がその特色から自分の考えを持つことが必要であると考えた。そして、資料の読み取りの責任を持たせるために生活班でグループを構成し、一つの資料から読み取ってほしい事を明確にした課題（指令カード）を提示し読み取らせることとした。

各グループに、任せられた資料の読み取り結果を発表させ、全てのグループの発表後、より広い視野から地域的特色を理解し、自分の考えを再構成できるようにワークシートを工夫した。そして、各自が自分の読み取った内容と複数の資料を比較・関連付け、自分の意見を持つことができることをねらいとして、上記研究テーマを設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

【実践1】 単元名 「2章 世界と比べた日本の地域的特色 3節 資源や産業的特色」

(1) ワークシートを活用したジグソー学習法による学習形態の工夫。

【ステップ1】 個人での読み取り。

【ステップ2】 ジグソー班で任された資料を読み取る（班に全体への説明責任を持たせ任せる）。

【ステップ3】 全体にジグソー班からの資料の説明をした後、個人で本時の学習課題を集約する。

(2) 資料読み取りの課題設定（指令カード）の工夫と、学び合い活動による意見の再構成。

実践1より、ジグソー学習法を1単位時間の中に盛り込もうと、比較的資料が多く活用できる場面を選び試みた。話し合い活動に不慣れなこともあり、話し合いの焦点やまとめに課題が残った。

そこで、実践2では、ワークシート（指令カード）を前面に出し、本時の学習課題を収束へと向かわせていく手立てへと改善し、話し合い活動もワークシートに沿って学習課題の解決へとつなげていった。

【実践2】 単元名 「3章 日本の諸地域 2節 中国・四国地方」

(1) ワークシートの工夫

資料から分かることや気付けることを穴埋めにされたワークシートを用い、各グループに一つずつ任された資料を正確に読み取る。他のグループが読み取った資料を聞き、自分自身が読み取った資料について再確認する。

(2) 学習形態の工夫（本研究はグループ活動を中心とする）

各グループに任された資料の読み取り結果を伝え、聞き合うことで、本時のねらいに迫る思考の広がりをもつ（個人→グループ活動→個人）。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- ワークシートの空欄を設定する場所は、第一に授業で習った既習事項であること、第二に資料の読み取りが単純な数値の大小にならないように、単位や差を意識し、その比較に何倍や分数で表記したり、より詳細な資料の読み取りになるように空欄を設定した。このことが、グループ内の話し合い活動を活性化し、資料をより広い視野からの読み取ることに繋がった。
- 戸惑いや勘違いをするように空欄設定を工夫したワークシートは、話し合い活動を学習課題が収束できるように意識させたり、授業の視点を意識させて取り組めたりする効果があった。
- ワークシートの中で、学習を終えることで学習課題に対する自分の考えに変容が見られるように作ったことが、思考の変容を見取るだけでなく、誤解して理解している実態なども分かり、生徒の実態把握にもつながる効果があった。
- 本時の学習課題を意識したワークシートを作成することで、学習した地域的特色を、他の事象と有機的に比較・関連付けて追究する学習活動を展開する中で、総合的に捉えることができるようにする動態地誌的效果が表れていった。その際、生徒たちの活動でまとめられるように穴埋め形式ばかりにするのではなく、資料によっては自由記述でワークシートを作成することが有効であった。

2 課題

- ワークシートをそのまま話し合いやまとめの収束に使ったり、発表原稿となったりすることで、発表時間の短縮につながり、個人のまとめ（再考）をする時間の確保につながっていくはずだったが、実際は再考する時間が短くなってしまった。
- 穴埋めで生徒の主体性が損なわれないように配慮し、この単元で何を学び、単元を通した学習課題につながっているのか実践する場面を明確にし、見通しを持てるような工夫が必要である。

＜授業実践＞

実践 1

1 単元名 「2章 世界と比べた日本の地域的特色 3節 資源や産業的特色」（第2学年・1学期）

2 本単元及び本時について

本単元は、世界的視野や日本全体の視野から見た日本の地域的特色を取り上げ、我が国の国土の特色を様々な面から大観させることを主なねらいとしている。

その中、この小項目では、基本的な事柄で構成されている様々な資料を読み取り、日本の資源や産業の特色を理解できるものである。

そこで、資料に表れている違いや変化、特徴に気付かせ、それらの根拠を示し、自分の言葉で表現できるように、以下のような手立てを考えた。

◎ 個人で本時の学習課題に迫れる資料から、気付くことをワークシートに記入する。

資料を読み取る際、実物投影機で資料を拡大投影し、グラフの基本的な見方や読み取り方を一斉指導の形式で支援する。

◎ グループごとに一つの資料に責任を持たせ、各自が気づいたことを班で確認し合い、他のグループへ資料を分かりやすく説明するために話し合う。

◎ グループで気づいた内容を発表し合い、それを受けて自分の意見に根拠を示せるように再構成する。

本時は、「日本の産業にはどのような特色があるのか」という学習課題を設定し、複数の資料を個人で読み取り、それを踏まえて、一つの資料の読み取りに責任を持たせたグループ（ジグソー班）で読み取らせていった。資料の読み取りが個人では困難であった生徒も、資料に目を通していていることで、ジグソー班で読み取ったことの発表を聞き、理解が深まり本時の学習課題に迫れると考えた。

3 授業の実際

【留意点】教科書や資料集など生徒が持っている資料を生かし授業を構成する。

本学年は、六つの生活班での活動を重視しており、それを生かしジグソー班は6班で編制。

◎授業改善に向けた手立て

(1)ワークシートを活用したジグソー学習法による学習形態の工夫

【ステップ1】個人の活動

複数の内容を含む、世界と比べた日本の特色の資料を個人で読み取る。

読み取る資料に対し、着眼点に困っている生徒を支援するため、実物投影機等を活用し一斉指導する。

本時の学習課題に迫る資料を、個人で読み取らせておくことで、ステップ2で行う各班からの説明が聞き取りやすくなるを考える。

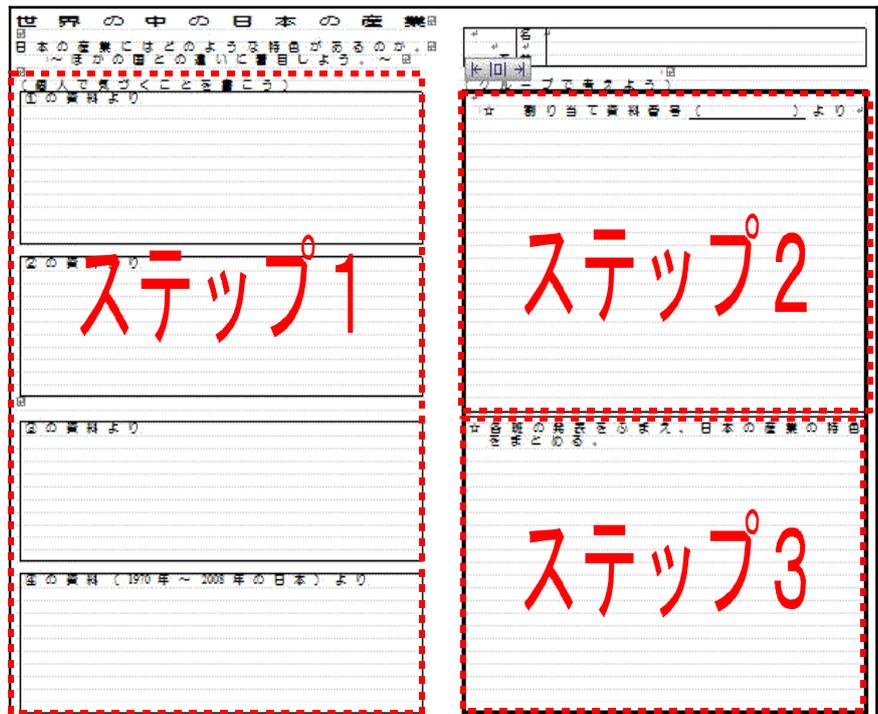


図1 ワークシート1

実践2

1 単元名 「3章 日本の諸地域 2節 中国・四国地方」(第2学年・2学期)

2 本単元及び本時について

本単元は、地理的分野(2)「日本の諸地域」ウ 他地域との結び付きを中核とした考察(キ)を受け、地域の交通・通信網に関する特色ある事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や変化などと比較・関連付け、世界や日本の他の地域との結び付きの影響を受けながら地域は変容していることなどについて考えることをねらいとしている。

その中、この小項目では、中国・四国地方について、他地域との結び付きを中核として、それを物資や人々の移動の特色や変化などと比較・関連付け、世界や日本の他の地域との結び付きの影響を受けながら地域は変容していることなどについて考えることができるように以下のような手立てを設定した。

- ◎ 思考の変化が確認できるようにワークシートの工夫する。
- ◎ 複数の資料を比較・関連付けてより広い視野から考察するために、グループごとに任される資料を読み取る。ワークシートは、単純な資料の読み取りでなく既習事項を生かすなど意図的に穴埋めされたもので、すべてのグループの発表を聞くと学習課題に迫っていけるように工夫をする。
- ◎ 学習形態の工夫として、グループでの話し合い活動を促すような指令をワークシートに含み、ワークシートを基に話し合い活動が進められる工夫をする。

本時は、「交通網の発達、人々の生活にどのような変容をもたらしたのか」という学習課題を設定し、基本的な事柄で構成されている資料を読み取り、複数の資料を比較・関連付けることで、本時の学習課題に迫れるようにした。特に交通網の発達として連絡橋に注目し、動態地誌的なつながりを意識していった。

3 授業の実際

【留意点】

- ・ 教科書、資料集を生かし授業を構成する。
- ・ 個人の読み取りでは、同じ資料を実物投影機で拡大し、読み取りの支援とする。
- ・ 話し合いや発表がワークシートに沿って行えばできるようになっている。

◎授業改善に向けた手立て

(1)ワークシートの工夫

- ①本時の学習課題に対する個人の考え方の変容が見られるワークシート1(図4)。
- ②グループでの話し合い活動を通し、資料から単純に大小や変化などを読み取るだけでなく、その資料を基に既習事項を生かし本時の課題に迫れる箇所に空白が設定されたワークシート2(次頁図5)。
- ③グループ活動を通し、気付いた内容を聞き合うことで、個人が本時の学習課題に対しての視野が広がるワークシート3(次頁図6)。

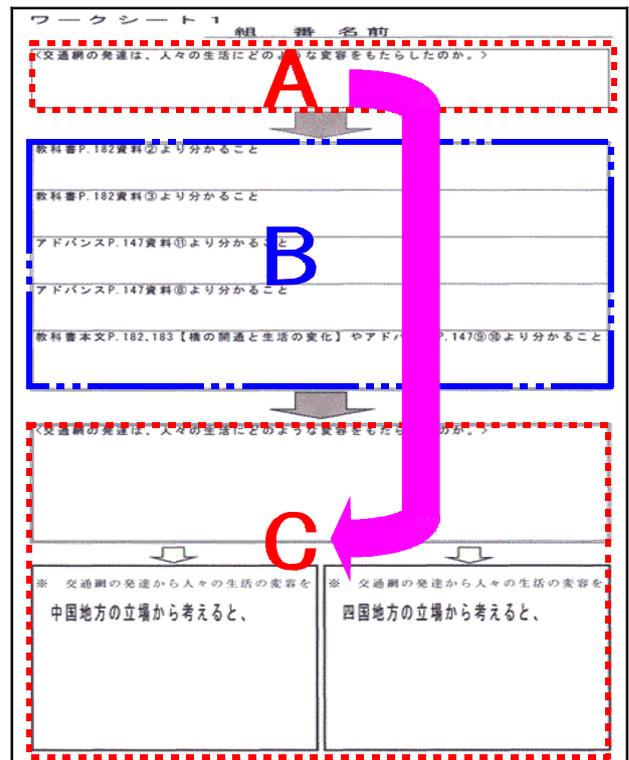


図4 ワークシート1

(2)学習形態の工夫

実践1を踏まえ、各グループがそれぞれ資料を説明する責任を持つジグソー学習法の要素を取り入れつつ、グループ活動を中心として行った。

【ステップ1】個人の活動

ワークシート1（前頁図4）では、Aの部分の前時の学習のまとめとして、「交通網の発達、人々の生活にどのような変容をもたらしたと思うか」を記入させた。

本時は、まず個人で根拠となる資料を読みBに記入した後、グループ活動へと進む。各グループに一つずつ資料の読み取りを責任を持って取り組むに当たりワークシート2【指令カード】（図5）を教師の意図で配付した。全班員で指令に考えていくこととした。

【ステップ2】グループの活動

グループに任された資料の読み取り活動に、既習事項などを生かし、資料から思考を広げてほしいことを穴埋め形式にしたワークシート2（図5）を用いたことで、活動の内容を明確にした。

ワークシート2（図5）中Iのように「分数」を用いたり、何倍というような形で比較したりする、計算を駆使した読み取りは、多くの生徒が回避する傾向にあるため、意図的に設定した。

また、ワークシート3（図6）中IIのように自由記述でできるものを用意した。これは、写真の変化や教科書本文からのまとめは、穴埋め方式だと思考が伴わない作業になってしまうと判断したためである。

【ステップ3】個人の活動

ワークシート3（図6）は、各グループに配付されたワークシート2（図5）を1枚にまとめたものである。これは、各グループから説明（図7）を聞き、授業の最初に行った自分の読み取りも加えながら、本時の学習課題を再考するために用いた。

また、発表された複数の資料から、交通網の発達のメリット・デメリットを仕分けできるように作成した。

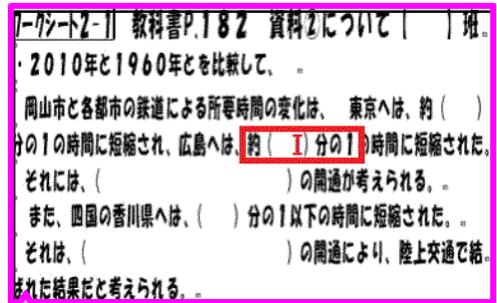


図5 ワークシート2【指令カード】

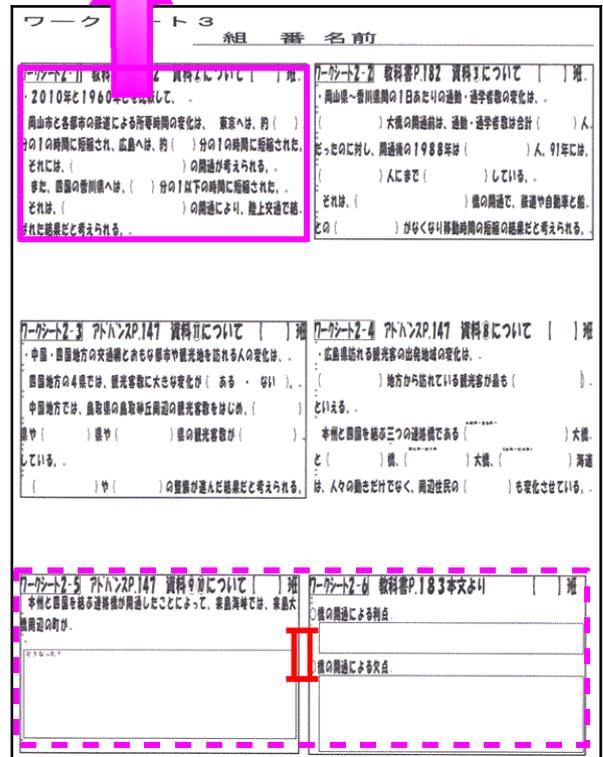


図6 ワークシート3

4 考察

- ワークシート2（図5）を用意することで、話し合いへの参加が高まり、話し合い活動が活性化した。
- ワークシート2（図5）を集約したワークシート3（図6）を配付し、メモをしながら各グループの発表を聞くことで、ワークシート1（前頁図4）のC（振り返り）へ根拠を持って書けたり、注のA（予想）の記述と比べ、メリットに加えデメリットも書けたりとより広い視野からの考察が見られた（図8）。

A：四国と中国の行き来がしやすくなった。
 → C：大都市の移動が楽になったため、地元の売上げが減った。

図8 生徒の具体例

- ワークシート2（図5）の存在は、穴埋め箇所をうまく活用することによって既習事項の確認になり、また教師が動態地誌の視点を持つことで、資料を比較・関連付けていく効果が表れた。



図7 ワークシート2が発表原稿にもなる